



海の便り



素晴らしいスタートのベベとスーパーウェーブ(三河湾合同レース)

会報目次

- | | |
|----------|---------------------------------|
| CHAPTER1 | MCC 春のチャンピオンシップ (ホーネット優勝記) |
| CHAPTER2 | 第 22 回エリカカップヨットレース(景虎 D クラス準優勝) |
| CHAPTER3 | 五ヶ所湾レース参戦記 (ダンシングビーンズ) |
| CHAPTER4 | 海上安全講習 (中村会長) |
| CHAPTER5 | 海陽ハーバー運営会議報告 (中村会長) |

行事予定

- | | |
|-------------|------------------|
| 6 月 15 日 | MCC カップレース (早朝) |
| 6 月 15 日 | 伊勢湾合同レース JASF OP |
| 7 月 19・20 日 | 三河湾周航レース MCC |
| 7 月 25-27 日 | 鳥羽パールレース JASF |
| 7 月 20 日 | 蒲郡花火大会 |

5月三河湾合同レース

今回のラグーナとの合同レースはエリカの前週のためか、34艇が集まりちょっとしたフリートレースとなった。

◇1 レース目は、途中まではコース取りに気を配りながら同型艇のEldorado、Ying Changには先行して走っていたのに最後、フィニッシングラインをよみ間違えてEldoradoに抜かれてしまった。本部艇側に行かなければいけないところ、マーク側にアプローチしてしまった。

単なる距離だけではなく、風に対する階段をきっちり見極めないといけない。これがなかなか難しく、詰めが甘いと最後に泣くことになる。常に、風と目標物の位置関係を判断することが必要だ。MCCではSuper Wave、Runnerがいい走りをして、1位、2位、Hornetは3位だった。

◇2 レース目 ブラックフラッグ

ゼネリコの後、レース本部は何とブラックフラッグを掲揚。ブラックフラッグ掲揚ではスタート1分前以降スタートラインから出たら失格なので、スタートまでラインを意識してやらなければ。この点、上側に位置取りしたこともあり、メイントリムをしながらも7~8秒前まで本部船とアウターを確認できたうえで、ラインに向かっていった。他艇に比べると出遅れ気味、結局、これが正解であり、振り返ればこれで勝てたようなものであった。

パーティーでは色々意見が出ていたため、運営側のコメントを聞いてみたいと思った。

それにしても、ラグーナの艇はラインへのエントリーが早いように感じた。ラインが上有利気味の時、また、艇数が多いときは、スタートが早めになりやすいので注意が必要だ。いずれにせよ、数人で乗っているならば、バウマンともう一人位で、スタートの瞬間までラインを確認していれば硬いのではないか。

◇ポート・スターボの接触

スタートで出遅れ（実は他艇がフライングだが）、フレッシュを取るために直ぐにポートに戻したいため、上側の艇をよけながらタックというヘルムス（中村さん）の指示だったが、これを避けるには少しベアーが必要で、このベアーにセールトリムがついていかず、逆に切りあがってしまいスターボード艇のスターンに接触してしまった。直ぐに720度回転を行い、レースを継続した。いざというとき33ftクラスだと、スムーズに回転するのはなかなか難しく、特に強風時は大変だろうから練習しておかなければと思った。

このように、ケースもあっていいレースができたという思いはなく、4月に引き続き優勝してしまったものの、色々と考えさせられるレースであった。しかしながら2レース目、失格せずにスタートできたことが勝因であることは明らかであり、幸運でもあったと思う。

ホーネット 正木 宏

三河湾合同レース成績表

穏やかな暖かい日を期待していたが、曇り空、遠くでは雨が降っているような見通しの効かない天候、南南東の手頃かやや強めの風の三河湾、34艇の参加を得て2レースが実施されました。

第一レース、ゼネリコが続いた後、3度目、風向変化に合わせラインを変更後ようやくきれいなスタート、手堅く走ったパラフレニアンが1位、2位にガスト、3位はカイトと大型艇が上位を順調に獲得し、小型艇ではJ24のフェルデフォンテ、サーフメイドが5位、9位を得て第2レースを迎えた。

第二レース、風がやや強くなった中、ゼネリコ後2回目のスタートは黒色旗掲揚、コミッティーは各艇のハヤル気持ちを抑えるつもりであったが、各艇の気持ちは来週のエリカカップを意識してか、ヒートしっぱなし、黒色旗規則違反艇続出、コミッティーは必死にチェックしスタートしました。結果は7艇がクリアーしただけで25艇が黒色旗規則違反、せつかく帆走しきってもフィニッシュフオーンが鳴らざがっかりしたことでしょう。

結果は手堅く走った7艇が上位を独占、総合優勝はホーネット、準優勝にメルブルー、3位はハイテンションが獲得しました。

セルNo	艇名	TYPE	所属	TA	(A)	名称 三河湾合同レース 第1レース					名称 三河湾合同レース 第2レース					合計	総合
						コース S-上-サイド-下-F					コース S-上-下-上-下-F						
						距離 1.7 マイル 1.0					距離 6.0 マイル 1.2						
						風速 5~9m					風速 5~9m						
						スタート 11:10:00					スタート 13:10:00						
着順	到着時刻	所要時間	修正時間	得点	着順	到着時刻	所要時間	修正時間	得点	順位	順位	順位	順位	順位	順位		
5824	Hornet	Yamaha 33S	MCC	605	0.9917	7	11:48:30	0:38:30	0:38:11	11	1	14:10:30	1:00:30	1:00:00	1	12	1
6311	Mer Bleue V	Finngulf 33	LOC	675	0.8889	14	11:54:15	0:44:15	0:39:20	15	3	14:25:44	1:15:44	1:07:19	4	19	2
5920	High Tension	Yamaha 23III	LOC	755	0.7947	28	12:00:31	0:50:31	0:40:09	19	6	14:28:51	1:18:51	1:02:40	2	21	3
164	Moewe	Yamaha 23II	MCC	755	0.7947	29	12:00:36	0:50:36	0:40:13	20	7	14:30:01	1:20:01	1:03:35	3	23	4
5015	Patura	IMS10.3	LOC	620	0.9677	20	11:55:51	0:45:51	0:44:22	25	2	14:22:48	1:12:48	1:10:27	5	30	5
4004	Paraphrenian	First 40.7	LOC	595	1.0084	3	11:44:57	0:34:57	0:35:15	1		DSQ	DSQ	DSQ	35	36	6
4932	Lutris	Slot 31	MCC	645	0.9302	27	11:59:49	0:49:49	0:46:20	30	4	14:27:30	1:17:30	1:12:05	7	37	7
5503	Gust	Cookson12m	LOC	565	1.0619	2	11:43:52	0:33:52	0:35:58	2		DSQ	DSQ	DSQ	35	37	8
241	Eleve	First31.7	LOC	660	0.9091	30	12:02:00	0:52:00	0:47:16	32	5	14:28:32	1:18:32	1:11:24	6	38	9
5870	Kaito	J/V35CR	LOC	605	0.9917	5	11:46:39	0:36:39	0:36:21	3		DSQ	DSQ	DSQ	35	38	10
5865	Sweet Aloha	First 40.7	LOC	595	1.0084	4	11:46:06	0:36:06	0:36:24	4		DSQ	DSQ	DSQ	35	39	11
5084	Fer de Fonte	J24	LOC	715	0.8392	15	11:54:26	0:44:26	0:37:17	5		DSQ	DSQ	DSQ	35	40	12
6155	Flawless	First 36.7	LOC	615	0.9756	8	11:48:39	0:38:39	0:37:42	6		DSQ	DSQ	DSQ	35	41	13
5550	Super Wave 6	Slot 31	MCC	645	0.9302	10	11:50:39	0:40:39	0:37:49	7		DSQ	DSQ	DSQ	35	42	14
5830	Eldorado	Yamaha33S	LOC	600	1.0000	6	11:47:52	0:37:52	0:37:52	8		DSQ	DSQ	DSQ	35	43	15
5016	Surfmade	J24	LOC	715	0.8392	17	11:55:09	0:45:09	0:37:53	9		DSQ	DSQ	DSQ	35	44	16
3687	Runner II	Yamaha 30SII	MCC	685	0.8759	13	11:53:33	0:43:33	0:38:09	10		DSQ	DSQ	DSQ	35	45	17
4825	BeBe	Pioneer 9FR/PB	MCC	700	0.8571	18	11:55:30	0:45:30	0:39:00	12		DSQ	DSQ	DSQ	35	47	18
5640	Ying Chang R	Yamaha33S	LOC	600	1.0000	9	11:49:08	0:39:08	0:39:08	13		DSQ	DSQ	DSQ	35	48	19
5933	Dancing Beens 3	Seam 31	MCC	625	0.9600	11	11:50:51	0:40:51	0:39:13	14		DSQ	DSQ	DSQ	35	49	20
4825	Boomerang	J24	LOC	715	0.8392	23	11:56:58	0:46:58	0:39:25	16		DSQ	DSQ	DSQ	35	51	21
5018	RedStar&Yakusimaru	J24	LOC	715	0.8392	24	11:57:11	0:47:11	0:39:36	17		DSQ	DSQ	DSQ	35	52	22
6308	Bengal-7	VDO46	LOC	495	1.2121	1	11:42:59	0:32:59	0:39:59	18		DSQ	DSQ	DSQ	35	53	23
4712	Akkochan	J24	LOC	715	0.8392	25	11:57:59	0:47:59	0:40:16	21		DSQ	DSQ	DSQ	35	56	24
5527	Eldorado 2	Yamaha 30SNew	LOC	635	0.9449	12	11:53:00	0:43:00	0:40:38	22		DSQ	DSQ	DSQ	35	57	25
4832	Odyssey	Tsuboi IMS950	MCC	650	0.9231	16	11:54:50	0:44:50	0:41:23	23		DSQ	DSQ	DSQ	35	58	26
6066	Noah X	Bavaria37	LOC	650	0.9231	19	11:55:31	0:45:31	0:42:01	24		DSQ	DSQ	DSQ	35	59	27
5253	Do Do 3	Yamaha 40EX	LOC	620	0.9677	21	11:56:42	0:46:42	0:45:11	26		DSQ	DSQ	DSQ	35	61	28
5404	Uranami 8	J92	MCC	645	0.9302	26	11:58:37	0:48:37	0:45:13	27		DSQ	DSQ	DSQ	35	62	29
4794	Sizuka	Yamaha 23 II	LOC	755	0.7947	31	12:07:33	0:57:33	0:45:44	28		DSQ	DSQ	DSQ	35	63	30
606	Joker II	Seam33	LOC	610	0.9836	22	11:56:44	0:46:44	0:45:58	29		DSQ	DSQ	DSQ	35	64	31
1	Spirit	NordicFolk25	LOC	800	0.7500	32	12:12:53	1:02:53	0:47:10	31		DSQ	DSQ	DSQ	35	66	32
4774	Armis 5	J/V9.6CR	MCC	625	0.9600		DNF	DNF	DNF	35		DNC	DNC	DNC	35	70	33
4750	Super Krow	SWING34	SYC	640	0.9375		DNF	DNF	DNF	35		DNC	DNC	DNC	35	70	33

景虎エリカカップ D Class 準優勝

昨年に続き今年も TRS Dクラスで準優勝出来ました。

乗船メンバーは大阪 (KYC MUMM36) から、村田さん、葉山マリーナのナポリ (DEHLER29) から吉岡君、米ちゃん、景虎メンバー手嶋さん、石川さん、辻本さん、山下君、とパンジャパンのメンバーでの参加となりました。

スタート混み合う本部船側を避けてピンエンドスタートと決めるが、エンドマークに入り切れずジャイブを余儀なくされる。

スタート大失敗、でも翌日の中日新聞朝刊のエリカスタート写真では目立つポジションに居ました。(知り合いから TEL 貰うが東京勤務の為すぐ見られず、、、)

2分~3分出遅れのスタートで、直ぐにスターボードタックで海陽岸迄突っ込む。

海陽手前で IRC クラス 10分遅れスタートのトップ艇ベンガルに抜かれその後、後続の AKEA,サイキ、DANCING,ROKUⅢと、どんどん抜かれる。

右海面の方が沖よりの船より走っていると思っていたが、後で CESTNUT から左海面の方が前に出ているとコメントされるが結果は不明。

ただタックを返すと DODO より前を走っていたのでまあまあか。

上マーク前では 10分遅れの IRC クラスと 10分前スタートのノンレーティングクラスが入り乱れ大混戦でしたがこのレグで DODO に抜かれてしまう。

ソーセージコースの為、ジェネカーしかない景虎には辛いランニング。

三ヶ根山の吹き降しが大島と陸側の間に収束されると読んで左海面を延ばすが、これが当り先行する BEBE に少し追いつきゴール直前で南に風が振れ幸運もありメルブルー、千春の前に出る事が出来、結果準優勝になる事が出来ました。

スタートとジャイブでの私の判断ミスが 2 回ありましたがクルーワークはノンミスに近く勝利に繋がりました。

来年優勝へのファイトが沸いてきました。メンバーの皆さん来年も宜しく！



CHESTNUT

景虎

6月7日はシドニー40で西村プロ乗船の伊東レースに乗船しま〜す。

< P S > 景虎のブログも時々覗いて下さい！

http://blog.goo.ne.jp/n_kagetora

第22回エリカカップ表彰式



第22回エリカカップヨットレース成績表(抜粋)

Class: A (IRC)

PI.	SAIL NO.	YACHTNAME	TYPE OF BOAT	Fleet,Club	ELAPSED TIME	CORRECTED TIME
1	4004	PARAPHRENIAN	FIRST 40.7	Laguna Flee	1:31:21	1:38:18
2	5870	KAITO	JUDEL/VROLIJK 35 CR	Fuki Fleet	1:33:12	1:39:04
3	5503	Gust	Cookson12m	Laguna Flee	1:28:57	1:40:41

Class: B (IRC)

PI.	SAIL NO.	YACHTNAME	TYPE OF BOAT	Fleet,Club	ELAPSED TIME	CORRECTED TIME
1	5619	AKEA	JUDEL/VROLIJK 9.6 CR	Hekinan Flee	1:33:28	1:35:15
2	5640	YING CHAN R	YAMAHA 33 S	Laguna Flee	1:34:04	1:38:01
3	5830	ELDORADO	YAMAHA 33 S T/R	Hazu Fleet	1:35:43	1:39:15
4	4825	BEBE III	PIONIER 9 (85)	Mikawawan Flee	1:49:00	1:40:10
7	5933	DANCING BEANS III	SEAM 31	Mikawawan Flee	1:41:34	1:43:24
8	5824	HORNET	YAMAHA 33 S	Mikawawan Flee	1:40:21	1:44:58

Class: IRC

PI.	SAIL NO.	YACHTNAME	TYPE OF BOAT	Fleet,Club	ELAPSED TIME	CORRECTED TIME
1	5619	AKEA	JUDEL/VROLIJK 9.6 CR	Hekinan Flee	1:33:28	1:35:15
2	5640	YING CHAN R	YAMAHA 33 S	Laguna Flee	1:34:04	1:38:01
3	4004	PARAPHRENIAN	FIRST 40.7	Laguna Flee	1:31:21	1:38:18
6	4825	BEBE III	PIONIER 9 (85)	Mikawawan Flee	1:49:00	1:40:10
10	5933	DANCING BEANS III	SEAM 31	Mikawawan Flee	1:41:34	1:43:24
11	5824	HORNET	YAMAHA 33 S	Mikawawan Flee	1:40:21	1:44:58

Class: C (TRS)

PL.	SAIL NO.	YACHTNAME	TYPE OF BOAT	Fleet,Club	ELAPSED TIME	CORRECTED TIME
1	2994	SHANGLRI-LA JR.	OCEAN 1100	Gokasho Flee	2:00:29	2:40:39
2	6066	NOAH X	BAVARIA 37 Cruiser	Laguna Flee	1:57:44	2:48:11
3	6311	MER BLEUE 5	FINNGULF 33	Laguna Flee	2:05:21	2:54:06

Class: D (TRS)

PI.	SAIL NO.	YACHTNAME	TYPE OF BOAT	Fleet,Club	ELAPSED TIME	CORRECTED TIME
1	250	HAIMI	YOKOYAMA 29	OYC	2:05:09	2:34:30
2	6299	KAGETORA	DUFOUR 325	Laguna Flee	2:05:06	2:40:23
3	5277	SATSUKI	BALTIC 35 (SR)	Mito Flee	2:03:07	2:42:00
7	5742	CHIHARU	HUNTER 33.5	Mikawawan Flee	2:12:33	2:54:24

Class: E (TRS)

PI.	SAIL NO.	YACHTNAME	TYPE OF BOAT	Fleet,Club	ELAPSED TIME	CORRECTED TIME
1	210	QUERIDA	FRERS 31	Onizaki Flee	1:48:38	2:26:48
2	3173	C'ELESTINE	Seam 31 II	MMYC	1:49:41	2:32:20
3	6257	QUARTER DECK	YAMAHA 30 SN	Taketoyo Flee	1:52:10	2:33:39
6	4774	ARMIS 5	J/V 9.6 CR	Mikawawan Flee	1:48:39	2:35:13
9	5404	URANAMI 9	J/92	Mikawawan Flee	2:00:48	2:50:08

Class: F (TRS)

PI.	SAIL NO.	YACHTNAME	TYPE OF BOAT	Fleet,Club	ELAPSED TIME	CORRECTED TIME
1	5362	LEIA	YAMAHA 34 S	Tsu Fleet	1:48:26	2:22:41
2	3833	BLUE SHARK	YAMAHA 31 S	KYC	1:48:30	2:24:40
3	5550	SUPER WAVE VI	SLOT 31	Mito Flee	1:48:34	2:24:45
5	66	HOPE	YAMAHA 21 C	MCC	2:07:18	2:28:01
6	164	MOWE	YAMAHA 23 II	MCC	2:07:58	2:30:33
8	4639	GAMELA 3	SWING 31	Mikawawan Flee	1:56:35	2:33:24
13	167	VIKING	X-79	LMC	2:05:08	2:40:26

Class: G ノンレーティング、着時間のみ

SAIL NO.	YACHTNAME	TYPE OF BOAT	Fleet,Club	ELAPSED TIME
6288	DAY TRIPPER	S-40	Laguna Flee	1:39:41
4832	ODYSSEY	TSUBOI IMS 950	Mikawawan Flee	1:50:20
4932	LUTRIS	SLOT 31	Mikawawan Flee	1:50:31

Class: H ノンレーティング、着時間のみ

SAIL NO.	YACHTNAME	TYPE OF BOAT	Fleet,Club	ELAPSED TIME
3125	JUN TWO	YOKOYAMA 30	FC	1:55:51
4712	AKKOCHAN	J/24	LMC	1:56:00
4791	KAZEYOBI	ESPRIT DU VENT	SYC	1:57:28

‘08年五ヶ所湾レース参戦記 “DBⅢの場合”

DBⅢがまだピカピカの新艇だった頃、というより初めて出たJSAFレースが五ヶ所湾レースで、今日と同じ様に深夜のスタートまでを過ごす為に、衣浦YHへ回航して来た時の事だった。ポンツーンに向って、ゆっくり進入して来ると着岸直前でオンザサンド！慌てたメンバーが片舷に乗ってフルハイク、フルスロットルのアスターン。冷汗を掻きながら今度は堤防側からやっと着岸できた。衣浦の海底は石の交じった泥で、キールの底に大きな擦り傷ができた。以来、キールだけで無く、記憶にも深く刻み込まれて船を上架する度に、このレースを思い出して決して忘れる事は無い。今回はラッキーにも衣浦の師匠に誘導されて特等席へ舳う事が出来た。久々に会う師匠はDBⅢの今年初レースの成績を知っていたのか？「こいつはいい船だよな！」と、いかにもSEAMを知り尽くしたヨットマンらしい蘊蓄に終始笑顔で耳を傾け、夕食までの時間を過ごした。

何故か？此処へ来ると夕食は焼き肉と決まっている。KYCのクラブハウス近くにあった焼肉屋は、たとえ近所に葬式ができて店を開けてくれ、年に一回しか来ない我々にはオアシスの様な店だった。が、数年前にたたんでからは国道を挟んだ反対側の大衆食堂で我慢の夕食が続いた。

今回は時間の余裕から富貴方面へ歩くこと10分に派手なイルミネーションの本場韓国風焼肉屋を発見した。店に入ると既に先客が居て、マッコリを次々に注文して勢いが付いている。何処かで見たような人達だ…。我々は目立たぬ様に少し離れた所に座って「少し違うかなあ？」と思いつつも静かに充電を始めた。落ち着いた処で、費用対効果を考え、河岸を替える事にした。しかし、何を血迷ったのか？無謀にも対面の豚骨ラーメン屋で仕上げをしてしまった。「これが糖尿病を患う人間の食事か？」反省と後悔頻り、満腹の腹を抱えて早足で艇長会議へ向かった。

入り口で手続きを済ませると、相変らずの狭い部屋に顔見知りの艇長さん達が大勢座っている。この雰囲気も変って無い。会議は帆走指示書に記載のあった「別図参照」の別図が無かった事とスタートラインの消滅時間の矛盾を修正して終了した。その後は長丁場のレースを考えて、少しでも長く仮眠を取ろうと早々にクラブハウスを出て船に戻った。

辺りはすっかり暗くなって、ハーバーの奥に見える工場の明るい無数のライトが航海の不安を助長する。隣の高い煙突の煙が風の方向と強さを教えてくれるのだが、今日は右に左に変わって役に立ちそうも無い。恥ずかしい話だが、この光景を見る度に不安に襲われる。過去、このレースは荒れる事が多かった。「メイストーム」は造語らしいが、GWは北の冷氣と南の暖気がぶつかって、嵐になる事が多いので、出来た言葉らしい。キャビンには充電の済んだメンバー達が、既に深い眠りの中、後を追ってバースへ入り明かりを落とすが、工場の騒音と軒が私の追隨を邪魔する。睡魔と不安で寝返りを繰り返す。眠ろうとすればするほど眠れなくなる。「強風が吹き荒れたら？」とか、「また、三つ岩に囲まれたら？」とか、頭の中でグルグル回り出す。毎年、船外に吹く風よりもはるかに強い臆病風に吹かれながら、まんじりともせずにスタート時刻を待つのも全く同じだ。

夜中12時近くなると、暗闇の中に人影が集まって来て騒がしくなり、スタートが迫っている事が分かる。我々も仮眠から目覚めて準備を始める。他の船には、もうエンジン音が響いて、既に航海灯まで点いている。間も無く陸組のクルーも揃ったので、舳いを解いてスタート海面へ出掛ける。振り向くと、あの煙突の煙がライトに照らされて、今は南に流れている。衣浦港の防波堤を越えると昼間の様に明るい停泊中の本船の間を通り抜けて、黄色の回転灯が目立つ本部艇を見つけた。

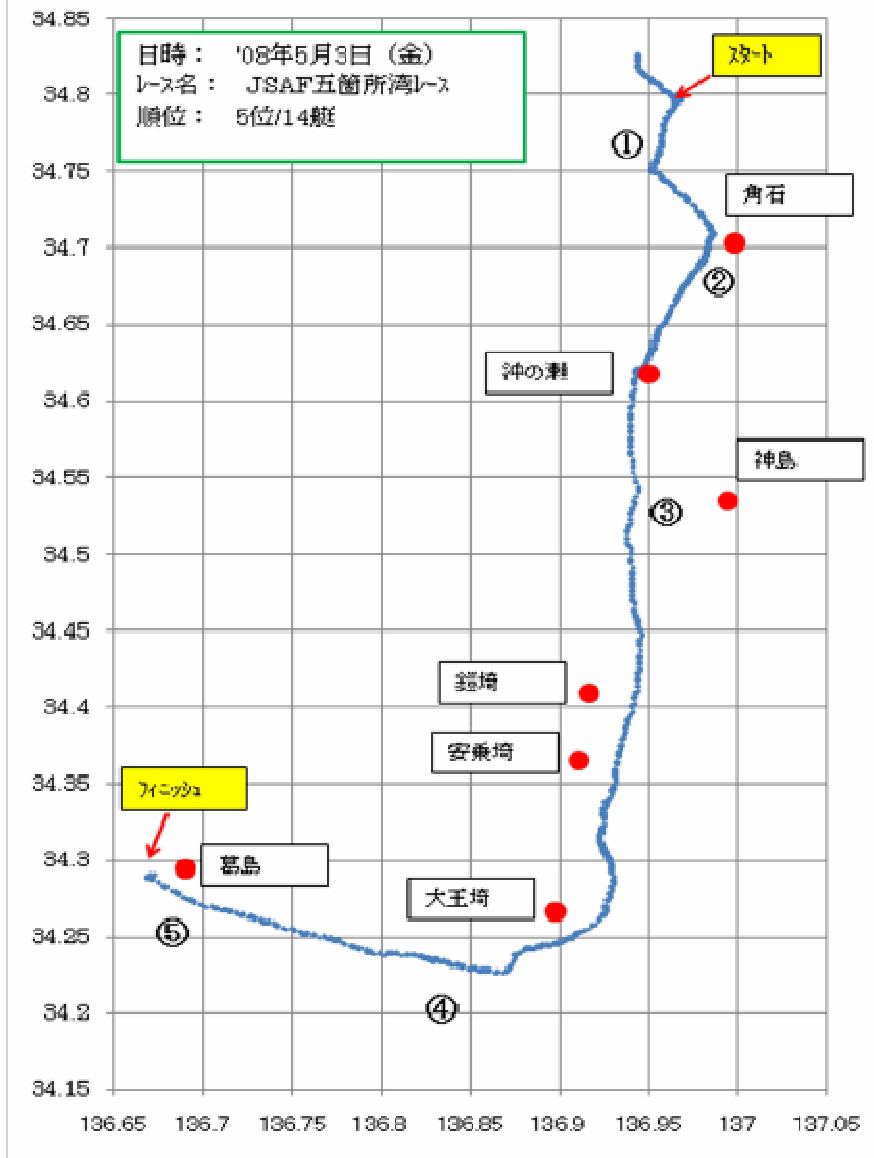
リミットも確認でき、スタートラインがイメージ出来る。メインを上げて風をチェックする。チッタナポリの方向にバウを向けると、煙の流れる方向と同じ風で、なかなか難しいスタートになりそうな予感。暗い海を見渡すと結構な杯数の灯りが確認出来るので、きっとスタートは混むだろうと推測する。スピンドでスタートを決めたいが、風が無い事を考えると行き足が必要だ。スタートはヘッドセールをセットして、スタートラインを切ったらスピニアップ。そう決めて、本部艇の外側からクローズで上り、ジャイブで落してスタート。これをスタート直前まで繰り返し練習した。

この練習が功を奏したのか？スタートはジャストスタート。「スピン！スピン！」「早く！早く！」スピニアップを、もたついている我々の下から師匠の船が、すっと走り抜けるのが、闇の中でも良く分かった。スピンドが上がってスピードが付くと、前にも数艇いるが、結構いいところを走っている。後ろから迫る大型艇に抜かれまいと彼らに合せて上ると、更にスピードが出てDBⅢは良く滑ってくれている。前の船を抜こうとするが、追突を気にして下に入ってしまった。「しまった！」下からは抜く事が難しく、並走する時間が無駄になる。DBⅢより大きな船なので、早く抜いて欲しいのに、ずっと同じスピードだ。イライラが増幅する中、岸が近いのでジャイブして角石が見通せる位置まで出る事を決める。しかし、ここで風が落ちて来た。行き足が無くなって、あと一步の処でアウト！角石が近過ぎて、危ない！止む無く、もう一回ジャイブして知多半島へ寄せる事にした。又しても無駄な事をやっちゃっている。

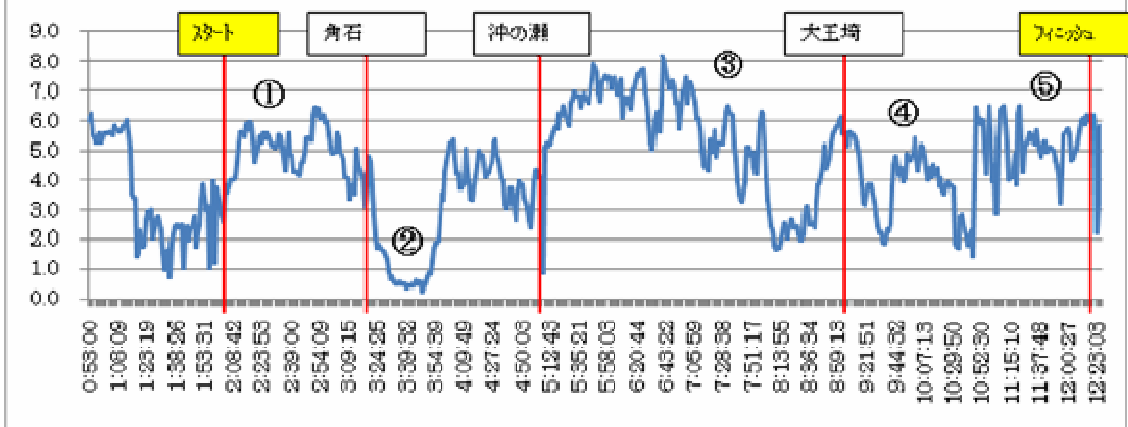
この狭い海域に後続艇も加わって密集し、俄に緊張が高まる。僅かな風を拾いながら進めるが、右に見える師崎港の灯台の光は全然動いて行かない。既に、このカームを脱出した先頭集団も、再び、この先のカームに捕まり、皆並んで待っていてくれる。スタンライトが並んで見えていた集団に緑のライトが順番に見える様になった。「吹いて来たか？」彼らに風が入り、沖の瀬の方向に向かって進み出した。我々には未だ待望の風は入って来ない。遅れない様に付いて行きたいのに、気持ばかり焦っても船は一向に進まない。暫くしてDBⅢにも風が入った頃には、先頭集団は遙か彼方の闇へ消えて、逆に後続艇がすぐ後ろにまで迫って来ていた。やっとの思いで辿り着いた、沖の瀬では風が捲いていて、直前タックを余儀無くされて、またしても時間を無駄にしてしまった。

さて、課題はここから！一昨年の二の舞にならぬように慎重にコースを決めなければいけない。あの時はレースに夢中で気付く間も無く、黒い岩が薄暗い海面の手が届きそうな所に顔を出している、すぐ横を走り抜けてしまった。瞬間！「もうだめか？」と背筋が凍りついた。運が悪ければ、新聞沙汰？になっていたかも知れない。未だに鮮明な記憶が脳裏に焼き付いている。先行する艇は沖に行く様だ。同じコースを取っても面白くないので、皆とは違うコースを行きたい。今日は、岸寄りのコースを選択した。しかし、岸に寄せる「うねり」を横切って進むのは、船が横揺れをするので操船が厄介だ。DBⅢにはヘルムスマンが2人いて、ロングでは交代しながら集中を維持するのだが、今日は2人とも欠席。なんと！私が一人で全工程を握る事になっている。夜が明けると、欠伸の回数が多くなった。常に沖を選択した船と自艇の走りをチェックしていた。再びスピンドになって鎧崎、安乗と、ゆっくりだが順調に南下してくると、大王を目前にしてまた風が落ちて来た。行き足が止まると、途端に後続艇が大きく見える様になる。しかも、31S軍団！だから面白くない。ここまで何とか、超微風の中を頑張ってきた努力が、水の泡と消えてしまう様な気がした。

'08年JASF五箇所湾レース帆走レポート



艇速 (対地速度)



布施田の手前には定置網があって、南端まで迂回しなくてははいけない。この超微風の遠回りは、本当にうんざりで、しばしば襲って来る睡魔に負けない「頑張る気力」を、いとも簡単に削いだ。ところが布施田の入り口辺りには、カームに捕まっている先行艇が見える。我々と31S軍団には、まだ風が有り、どんどん彼らに迫って行く。もう、目と鼻の先まで来た。「悔しいだろうなあ？」31Sと一緒に走っていると、彼らの気持ちがよく分かる。ふと気が付くと、下から一杯だけスピンの風を受けて走って来る船が居る。「んっ？向こうには風が有るのか？」我々の周りには、既に風は無い。「よっしっやあ！ジャイブだ！」下の船まで落として、あの船と同じ風を拾いに出た。ところが後続の31S軍団は、そのまま止まるどころか？今し方、岸に出来た風の塊を拾って勢い良く走り出した。「なんだあ、あれ？」布施田の出口に来るまでに、31S軍団に完全にやられてしまった。岬の切れ間から断続的にブローが来るのと、五ヶ所湾口に上る為、スピンからNo1に替えている。ヒールを繰り返しながら、先行艇を見ていると、風の変わる場所が確認できる。予め準備して左右入れ替わる風に、素早く反応して船を止める事無く、頗る順調に快走して行く。前を行く31S軍団を除けばだけど…。何とか五ヶ所湾の入口まで来ると、沖からスピンで勢い良く近づいて来る船が見える。ゴールまでは、まだまだ距離が有りそうだ。とすると彼らにも抜かれそうで「やばいっ！」「いかん！今からでもスピンで行くしかない」よく見ると師匠の船だ。スピンの上がった頃には2杯が並んで走る事になった。師匠は下突破するようだが、下からは、まず抜けないだろう。一進一退を繰り返しながらフィニッシュが見えて来た。DBⅢはリミットまで、ぎりぎりのデッドラン。ごまかしながらここまで来たが、師匠はジャイブの準備を始めた。「何とかこのまま入りたい！」ジャイブしたら絶対負ける！デッドランで突っ切る事を決めて、リミットマークのすぐ横をギリギリで通り抜けた。師匠はジャイブを返してフィニッシュ。ほんの僅かの差でホグホーンの音を早く聞く事が出来た。「やっと終わった」無事に完走した満足と、31S軍団にやられた悔しさで、複雑な心境だった…。その後、疲労困憊も手伝って成績の事は誰も口にしなかった。

緑が眩しいVOCに舳れを取ると、鷺の声が賑やかで、本当に素晴らしい！何時、来ても此処はいい所だ。空の青さが際立っている。腹ごしらえをして熱いシャワーで汗を流し、10時間に及ぶ戦いを静かに振り返りながら束の間の休息を取った。空が紅く染まる頃になると、恒例のパーティーが始まって、会場のあちらこちらに笑顔の花が咲いた。暫定ではあるが成績の発表も有ったが、聞く耳を持っていなかった。すっかり使い果たした精力を五ヶ所の海の幸で再充電して、昼間より更に静かになったポンツーンに戻って来ると、満天の星がDBⅢに降り注いでいた。

「何回目のレースだっただろうか？」今回も無事に完走する事が出来た。思えば、この五ヶ所湾レースにはピーターソンのビンドがダントツで走っていた頃から参加して来た。この世界に夢中になって、もう4半世紀が過ぎようとしている。あの頃は、まさか自分達の新艇を進水させて、レースに夢中になるとは思ってもいなかった。時の流れの中で、実はあらゆる事が大きく変わって行く。MCCも、今、大きな転換期に来ていると思う。出来る事ならこれからも、いいレースを続けて行きたいと願って止まない！一夜明けて、大王の田中料理店経由で、例のお茶漬けに舌鼓を打って、帰って来ると、意外にも5位と言う知らせ！成績を見てキョトンとした。DBⅢよ、ありがとう！

By DBⅢ M. A

海上安全講習会が開催されました

5月31日海陽ヨットハーバーで中部小型船安全協会主催の海上安全講習会が開催されました
講習内容は次のテーマでした

- 1 プレジャーボート等の海難事故防止について（講師：蒲郡海上保安署 担当官）
- 2 津波防災情報について（講師：第四管区海上保安本部海洋情報部 担当官）
- 3 気象・海象、風浪等の気象解説（講師：気象解説家 島川甲子三氏）

津波防災情報では

東南海・南海地震想定での津波予想が紹介されました。
第4管区海上保安本部HPに掲載されている津波防災情報図の紹介と具体的にラグーナ付近での予想をもとに
んな影響が予想されるか説明されました。

予想ではまず70cm程度の引き波が発生、その後寄せ引き波が3-40分サイクルで繰り返され、最大で1.5m程度の津波が想定されています。説明によれば流速はノット以上、海上では上下運動が主で被害は無さそうですが、海岸ではかなりの流速があり、スロープに立っていたら、ディングーを置いていたら大変なことに成りそうです。

津波情報が出たときの対応方法を整理しておく必要があります。

気象・海象、風浪等の気象解説では

気象通報での波高の考え方、有義波高・・・、波高1mとは・・・最大は2mを想定

避雷対策、陸上・海上・・・車内は安全、船ではマスト、エンジン近くは危険・・・

温暖化・・・気象では気候変動、戦後一時下がった時期もあるが右肩上がりが続いている

過去の記録を調査すれば、今より高い時期はあった、当時の過ごし方を研究すべき・・・

地震・・・海では海震、外洋にいて海震を感じたらどうすべきか・・・

海震・・・外洋ではドーンと感じるそうです、座礁ではありません、ドーンと感じたらラジオ受信すべし、地震速報・津波情報を確認し深いほうへ避難すべし、慌てて戻らず落ち着いてから港に戻れば浦島太郎???

今までこの種の講習会何度も聞きましたが、今回が一番印象に残る講習会でした。

地震、津波がテーマにあったからかも知れませんが、私は三河湾のような地形では津波の被害はほとんど無いと教育されてきましたが、昭和19年の東南海地震でも1.5mの観測記録があったそうです。

1.5mの津波に襲われたら係留艇はどうなるのでしょうか??満潮時だと・・・

色々考えさせられる講習会でした。

中村



情
ど
波、
5
1
す



津波防災情報図は <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN4/tsunami/top/index.html> 見てください。

海陽ヨットハーバー運営会議

5月17日10時から題記会議が開催されました。

MCC代表として中村、他にクルーザーオーナー、ディンギー諸団体の代表者が参加し愛知県都市整備協会関係者、三河港務所蒲郡出張所関係者と意見交換がされました。

愛知県からのお知らせとして

隣接地に工事していた大塚海浜緑地は予定通り7月にオープンする、有料駐車場が併設されます。イベント開催では三河港務所蒲郡出張所が窓口になります。

海陽ヨットハーバー管理事務所からは

荒天時のレスキュー活動時に「救助活動への協力依頼」がありました。緊急時には安全確保に協力するのは当然ですが我々にどんなことが協力できるか、緊急時に遭遇したら職員の協力要請に応えましょう。ヨット乗員の人命第一が最優先、船体放棄したヨットの表示方法が話題になりました。

意見要望では前回分の現状説明がありました。

ほとんどは解決されていますが継続要望していくものもあります。

ハーバー前の信号設置では来年度までに設置の計画で進んでいます。

ポンツーン修理日程が決まった矢先に別トラブルが発生、今後工程調整する。

クルーザーマスト立てジブクレーンは継続要望していきます。

クルーザーエリアに東屋、トイレ等の設置も継続要望していきます。

これらの報告に対し継続要望の早期解決要望を強く依頼しました。

三河港蒲郡地区港域催事使用者連絡懇談会

5月29日蒲郡市役所で題記会議が開催され、MCC他行事を計画している団体等が参加し情報交換がされました。

各団体からの報告では例年と変わらない行事の説明でしたが、

蒲郡市観光課から

蒲郡まつり蒲郡納涼花火大会の日程が例年は第4日曜日ですが、

今年は第3日曜日、7月20日開催で説明がありました。

また、11月2日には大塚海浜緑地で全国伝統花火サミットが開催されます。